

## 福祉生活常任委員会 視察研修

7月8日・9日

研修先  
福島県鏡石町



▲認定こども園ぶどうの木

「認定こども園」でめざす保育内容は、①、一人ひとりを大切にす  
る保育、②、目に見え  
ないものを大切にする  
保育、③、遊びを大切  
にする保育、とし地域  
のすべての子どものた

7月8日、福祉生活常任  
委員会は、小学校唱歌「牧  
場の朝」のモデルとなつた  
日本初の西洋式牧場「岩瀬  
牧場」がある町鏡石町を訪  
問した。鏡石町は福島県の  
中央部に位置し、人口1万  
2,790人（平成22年7  
月1日現在）で日本一の生  
産高を誇る「岩瀬きゅうり」  
の主要な産地で農業を基幹  
とする町です。町には小学  
校2校、中学校1校、高校

1校、幼稚園3園（町  
立1園、私立2園）、町  
立保育所1園が存在し  
1,700名余りの児童  
が通園、通学していま  
す。そのような中で今  
回は鏡石町立鏡石児童  
館、鏡石栄光保育園、  
鏡石栄光幼稚園を視察  
しました。児童館の利  
用時間は平日（月～金）

は13時～18時30分まで、  
土曜日は7時30分～18時  
30分まで。利用料は4,0  
00円とおやつ代等2,0  
00円で合計6,000円。  
登録児童は小学校1年生か  
ら3年生で133人（4月  
30日現在）が在籍してい  
る。条件は両親が勤労者あ  
るいはそれに準ずる児童  
で、児童館のめざす児童像  
は（1）明るい子、（2）  
考える子、（3）がん  
ばる子としている。



▲おやつ時間



▲研修の様子

めに保護者の就労の有無に  
かかわらずすべての子ども  
が利用できる総合施設をめ  
ざしている。  
園の中は、衛生的で安全  
面にも配慮され園児は明る  
く元気でびのびと過ごし  
ている様子が印象的でした。  
このような施設なら親  
は安心して託すことができ  
ると感じた次第です。

## 北群馬郡町村議会議員研修

7月12日

テーマ 群馬県の気候と  
新しい防災気象情報  
講師 前橋地方気象台  
次長 安田 操 氏

近年、異常気象について  
警鐘が鳴らされ地球環境を  
守るとりくみが急速に進ん  
でいる。本村では4月17  
日に季節はずれの降雪で、  
ぶどう棚が倒壊する等の被  
害に遇ったり、7月5日に  
は、集中豪雨で床下  
浸水が発生してい  
る。そんな時機をう  
かがうかのように安  
田先生のお話を聴く  
ことができた。

（以下講話の要旨）



▲研修の様子

ている。季節別では春（特  
に5月）の気温が2.9℃  
で、上昇の割合が最も大き  
くなっている。理由は解析  
していないとのこと。気象  
庁では、平成22年5月27  
日13時から、気象に関す  
るすべての警報・注意報を  
市町村単位で発表できるよ  
うになった。例えば大雨洪  
水注意報基準によれば、榛  
東村は1時間に60ミリ降  
れば注意報が、90ミリに  
なると警報が発表される。  
これまでよりきめ細かな  
（絞り込んだ）地域に警  
報・注意報が発表できるよ  
うに改善されたことを喜び  
たい。

# 研 修

## 産業建設常任委員会 視察研修

8月10日・11日

研修先 茨城県水戸市  
専修学校 日本農業実践学園



▲レタスの水耕栽培

同学園は、全国新規就農相談センターが主催する就農準備校の研修場所として、平成8年から受講生を受け入れ、通常年では年間130人前後の受講生のところ、21年度は世

教育目標は、農業を担う青少年に対し、確固たる人生観を与え、勤労と責任を重んじる精神を養い、広い視野に立つて農業経営の近代化を推進する知識と技術を体得させ、いかなる環境にあっても自立することのできる、心身とも健全な農業者を養成するとしている。

教育方針は、実践教育・全寮制教育・師弟同行に据えて、農業は「食」とおして私たちの命を支える「命の源」の教育を実践している。55haの土地に、稲作、野菜（露地・有機・水耕）、酪農、養豚、果樹、製茶まで作付けし、農産加工等、直売所の運営まで行っている。

同様に、国が実施する緊急人材育成支援事業による職業訓練の受入で22年10月開講の農業実践科の受講生募集を行っている。現状を目前で実感し感動の研修で今後の活動に生かす研修である。

学園の沿革は、大正14年に社団法人日本国民高等学校協会の設立。昭和2年に農村中堅者の養成を目的に、日本国民高等学校を開校。昭和55年に校名を日本農業実践大学とし、平成3年日本農業実践学園に改め現在に至る。卒業生8,000人余りが全国で活躍中。

教育方針は、実践教育・全寮制教育・師弟同行に据えて、農業は「食」とおして私たちの命を支える「命の源」の教育を実践している。55haの土地に、稲作、野菜（露地・有機・水耕）、酪農、養豚、果樹、製茶まで作付けし、農産加工等、直売所の運営まで行っている。

昨年引き続き2回目となった全国町村議会広報研修会では、「わかりやすい文章表現」「読まれる広報紙のつくり方」「ネット発想で考える自治体ホームページの活用方法」について講義を受けた。広報は広く報告するのが目的である。手にとって読みたいとひきつける「議会だより」をつくるために必要な核心を学んだ。例えば、企画は読者が

相を反映し、240人と多い。チャレンジ・ザ農業体験・研修と名付けた就農準備校のコースは、短期農業体験（5日間）、中期農業研修（1ヶ月）、農業実践（3ヶ月）に分かれ、稲作、野菜、有機野菜、水耕栽培、畜産、農産加工など学園の学生と同じ内容を選択し年間通して毎週実施している。その他にも、国が実施する緊急人材育成支援事業による職業訓練の受入で22年10月開講の農業実践科の受講生募集を行っている。

「議会だより」について良い点、改善点など具体的で実践的な指導があった。議案に対する賛否の数を明示することが強調された。本広報委員会には、読者の知りたいことに応える編集方針をどう確立するか、研修の成果をどう活かすかが求められている。



▲研修

## 議会広報 特別委員会

8月25日・26日

研修先  
砂防会館（東京）



▲研修1日目



▲研修2日目